

第220回 春風狂句

9月号の笠は

「どっちみち」「褒められて」です。

お一人三句以内で8月10日(木)までに
受付にお出ください。お待ちしております。

選者 国府 良貝



かき氷 風鈴鳴りて物思う

鳥 藤子

(評釈) なんか夏らしか風情のあるね。ばってんこがん気持ちちが分かつとは 昭和生まれの 六十過ぎた人くらいだろね。夜は 蚊帳ばつて 開け放して寝られよつたもんね。時々 風鈴の鳴って 涼しか風の入りよつた。今は簡単に氷も 食べらるつばってん 昔は 貴重だつたよなあ。



かき氷 こんなのれんも 懐かしかア 吉岡 広子

(評釈) 夏になると 家のそばの大衆食堂には かき氷ののれんやのぼりが出され 風になびいていた。冷蔵庫もなかつた時代は かき氷は 一番の暑さ対策だつた。子供としては 贅沢な 食べ物で いつもという訳には いかんだった。食ぶつ時は 嬉しかったなあ。



かき氷 汗かきさんの 特効薬 杉野 裕志

(評釈) 冷蔵庫で 氷が作れるこつなつて かき氷ば 家で作る 器械はまさに 画期的だつた。暑か日に いつでん 食べらるつと思っただけで 幸せだつた。昔はまだ 氷ば 食ぶつと 涼しゅうなるくらい暑さだつたもんね。そうばってん 今は 暑すぎる。



かき氷 せがんだ昔なつかしか 脇田 五典

(評釈) 昔は 夏の氷は貴重品で かき氷は家では食べられん だつた。近くにある食堂に行くのが たいが楽しみだつた。時々 キーンと 額のところがいなくなることもあつたな。後で 舌ば ベーつとすつと みつかけの色に染まつたのも よか思ひ出。



かき氷 受け皿かくす 赤青黄

お米

(評釈) シヤリシヤリシヤリ という いかにも涼し気な音と共に プラスチックの受け皿に 積み上がったいくかき氷。お店の人が 手のひらで上手に形を整える。とがつた 氷の山ができ それに 赤青黄のみつが 注文ごとにかけられる、といった感じ。椅子に座つて できあがるまで見ている間、 ワクワクして なんか幸せだつたなあ。



遠い目で 見てやらなんね あの二人 令志 タエ子

(評釈) まだまだ若かし これまで何かと問題もあつたばってん けなげに 二人でよう頑張つとる。いろいろ言う人もおる ばってん 親としては 子供ば信じて あたたく見守つて やつぞ。そがん思わんか、 かあちゃんよ。



遠い目で 進らず活した 足の怪我 前田 うめか

(評釈) 年とつと なかなか治らん。時間のかかつとは しょんなかと 腹ば決めてかかる方が 賢明よ。ただ あんま用心しすぎて動かん 筋力の落ちるけん リハビリが大切よ。

たくさんさんの投稿をありがとうございます。

評釈は、勝手にイメージで 書かせて

いただいておりますので、お気に召さない

場合があるかもしれません。お許しください。

初めての投稿もお待ちしております。

